

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

続報 No.349

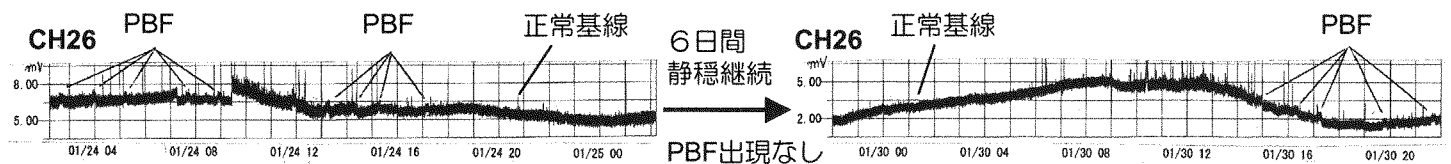
2023.02/01 (水曜) 11:00 発表

八ヶ岳南麓天文台 串田 〒409-1502 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 電話 0551-38-3987 FAX 0551-38-4254

※PHP新書「地震予報」にNo.1778前兆について記したため続報公開。No.1778前兆は28年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動。しかし首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までは数日の可能性が高い。火山噴火も検知可能。これらのNo.1778前兆以外の他の地震前兆については本HPでは公開できません。E-mailまたはFAXで配信の観測情報でのみ公開しています。本観測をご支援下さる方に前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。

PBF 1/24 夜静穏化 6日間再出現無し 1/30 夜僅かに再出現して終息 1/31.5 PBF終息の可能性高い → 4/6±3 対応地震発生の可能性有 2/10±2 特異変動終息の可能性が考えられるので 確認必要

図1



昨年07月から継続出現した八ヶ岳のCH26のPBF変動が1/24夜に終息しました。その後、1/30夜までの6日間PBFの再出現はなく静穏でしたが、1/30夜、僅かに数回PBFが再出現しました。1/31朝以降は静穏基線が続きPBFの再出現は全くありません。1/31.5終息の可能性が考えられます。この終息を昨年9/3.5のPBF極大に対する終息とした場合は3/24±3発生が計算されます。しかし9/3.5から継続出現の特異に極大認識ができないため、BT2と同様で、9/3.5の極大の終息時期に特異変動も終息する可能性が高いと考えます。現在特異変動が継続していることから、今回のPBF終息が9/3.5極大に対する終息ではない可能性が高い見解です。昨年7/28.4 PBF極大に対し、1/31.5のPBF終息が正しい場合は4/6±3発生の可能性が計算できます。これが正しく、現在継続中の特異変動が昨年9/3.5 PBF極大に対する終息時期に終息する場合は、2/10±2に終息する可能性が示唆されますので、実際に観測し確認したいと考えます。PBFも再出現がないか併せて観測します。

Earthquake Precursor Signal No.1778

(No.1778 初現:2008.July.04~)

Stage-26

2022-2023

対応地震発生推定
4/6±3

Stage 25 の 14 項目の
変動=7/29±3 を示す

- = CH 26 PBF変動
- = CH 26 PBF無く他のPBF変動
- ◇ = 特異変動 △ = 基線幅増大変動BT

Tmap:Tpp = 3.9:1

PBF終息 1/31.5

4/6±3

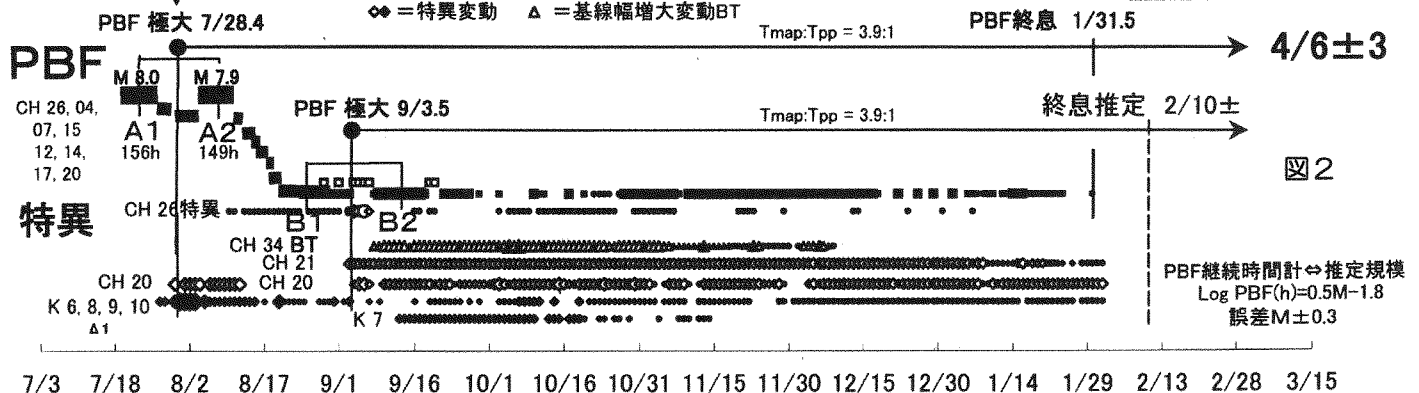
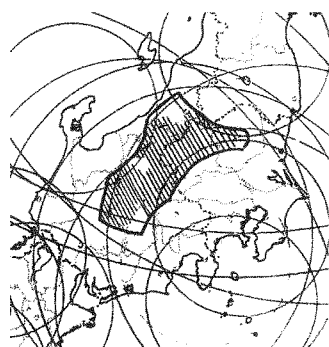


図2

PBF継続時間計⇒推定規模
Log PBF(h)=0.5M-1.8
誤差M±0.3

図3



- 推定領域：図3太線内領域
斜線域=火山近傍参考推定域
- 推定規模：M8.0±0.3
- 推定時期：4/6±3
特異変動終息確認必要
- 地震種：震源浅い地殻地震
- 推定発生時刻：午前9時±3
または 午後6時±3